

麻布大学ティーチング・ポートフォリオ

所属 総合科学部門

職階 講師

氏名 西本裕樹

麻布大学では、教育研究活動その他大学の諸活動を恒常的に自己点検・評価し、その結果を検証して改善に結び付けることにより、教育の質保証を行う観点から、各教員が『ティーチング・ポートフォリオ』を作成しています。ティーチング・ポートフォリオの構成及び更新サイクルは以下のとおりです。

1. 教育の責任・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
2. 教育の理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
3. 教育の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
4. 教育の方法の改善・向上を図る取組・・・・・・・・ 毎年
5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組・・・毎年
6. 学生の学修成果向上を図る取組・・・・・・・・・・・毎年
7. 指導力向上のための取組・・・・・・・・・・・・・・ 3年
8. 今後の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年

1. 教育の責任

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年4月

責任範囲は、獣医保健看護学科1年次前期；生物学、生物学実習、環境科学科1年次前期；基礎生物学、後期；基礎生物学実習、食品生命学科1年次前期；基礎生物学・同実習であり、座学における講義・小テストと定期試験、実習における実験・レポートの指導及び添削を行った。

科目名	学科・専攻	単位種別	配当年次	受講者数(単位:人)
生物学	獣医保健看護学科	必修	1	80
生物学実習	獣医保健看護学科	選択	1	74
基礎生物学・同実習	食品生命学科	必修	1	57
基礎生物学	環境科学科	必修	1	86
基礎生物学実習	環境科学科	必修	1	73

2. 教育の理念

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

学生が、分からないことを自ら知ろうとする姿勢や意識を身に付けさせるためには、目標と学習方法を明確にすることが簡便と考えられる。1年生ではまだ、各自の学習方法を確立できていない可能性がある。そこで、学生へのアプローチとして、①教科書・専門書から必要な知識をノートに整理する手本を示す、②問題を繰り返し解くなどの反復学習を習慣付ける、の2つを想定した。

①に関しては、講義で使用するスライドが複数の教科書の要点をまとめたものになっており、スライドを通して、学生が各自で要点をまとめる際の参考となるように意識している。また、②に関しては、小テストを講義中に実施、または練習問題として配布し、一度出題した小テストの問題を再出題する復習テストの実施や、定期試験に小テストから一部出題するなどして、多数の問題を反復する状況を用意した。また、小テストを解くためにはスライドと教科書を確認する必要があり、学生は復習→小テスト→復習を繰り返す必要もある。

3. 教育の方法

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年4月

前項①「教科書・専門書から必要な知識をノートに整理する手本を示す」に関しては、(1)複数の教科書から重要な点を図と箇条書きで作成した簡潔なまとめをスライドとして用意し、(2)スライド中の重要な用語や文章を空欄にして学生に配布した。講義中に空欄を提示し、学生にノートを取らせて重要事項のまとめを完成させ、(3)学生が復習する時には、スライドの空欄を暗記することで要点が身につくようにした。さらに、他の科目での自学でも、この講義のまとめを参考にして各自のノートを作成することで、知識が定着すると期待される。

前項②「問題を繰り返し解くなどの反復学習を習慣付ける」に関しては、まず、(1)毎週の講義内容に沿った問題（総数100～140問程度）を小テストとして実施、または練習問題として配布した。これにより、学生はスライドや教科書を復習しなければ解けない問題に取り組むことが求められた。また、(2)小テストの点数を成績評価に反映し、一度出題した問題

をまとめたテストも後日実施し、さらに、小テストや練習問題を定期試験にも一部出題して学生を何度も繰り返し復習する必要がある状態にした。なお、(3) 定期試験では、小テストの問題を改変したものも出題し、学生が丸暗記ではなく、問題を理解し注意深く読む必要があるようにした。

(1) アクティブ・ラーニングについての取組

有

生物学実習（獣医保健看護学科1年次選択科目）、基礎生物学実習（環境科学科1年次必修科目）、及び基礎生物学・同実習（食品生命科学科1年次必修科目）において、顕微鏡による試料観察、及びグループ発表を通して以下の内容を実施した。

顕微鏡による動物組織や培養細胞の観察・スケッチでは、具体的な観察対象を指定せず大まかな目的の提示のみに留めている。この実習内容では、学生に対し、プレパラートを精査しながら「何をスケッチすべきか」という目標を自ら設定するよう指導しており、これにより、研究の基盤となる課題設定能力と、事象から論理的帰結を導き出す能力の養成を図っている。

また、獣医保健看護学科の生物学実習では、実験結果を研究発表形式で報告するグループワークを課している。この課題を通じ、研究データのまとめ、グループ内でのディスカッション、資料作成、発表時の質疑応答を学生に経験させている。これら一連のプロセスは、科学的根拠に基づく対話能力や、批判的思考力を伴うコミュニケーション能力の向上に寄与すると考えられる。

(2) ICTの教育活用

有

講義に使用するスライドは、重要な単語や文を空欄にした状態でAzaMoodle上に公開しており、学生に対しては、講義中にPC・タブレットを用いてPDFファイルへメモ書きすることを推奨している。これは、ノートを取る事による記憶の定着や、メモの表示/非表示切り替えを活用した復習しやすさを考慮した対応である。また、毎週の講義後にAzaMoodleを活用して課題(小テスト)を実施し、学生が何度も繰り返し復習し、自身の学力を單元ごとに確認出来るようにしている。なお、小テストを作成する際には、収集した種々の国家試験の過去問を参考にして講義内容に関連する問題をピックアップ、または過去問を参考にした新規問題の原案を作成する際にAIを活用している。

4. 教育の方法の改善・向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

(1) 教育（授業及び実習等）の創意工夫

A

講義スライド中の文言の一部を空欄にしたスライドをPDFで配布し、PDFの利点を活かすことで学生が重要な用語やフレーズを覚えやすくなるように工夫した。また、昨年度の内容から講義スライドの内容と講義の順番を見直し、図の見やすさ、空欄内の単語・文の内容や長さも一部改善した。さらに、メモを取りそこねた学生にはAzaMoodleから講義動画を復習するように指示した。加えて実習では、学生の実験ノートを小まめにチェックし、ノートの内容・書き方などについてのフィードバックを頻繁に実施した。

(2) 学生の理解度の把握

A

AzaMoodleの小テスト機能を利用して講義ごとに小テストを実施し、直ちに小テストの結果を集計し、学生の正答率や小テストへの取り組み状況を逐一確認した。さらに、学生に対して、成績分布やその科目における合格ラインの目安を伝え、小テストの実施や復習を促した。加えて、学生が何度でも復習出来るように小テストを設定するとともに、解答解説も用意して、学生自身が何度でも問題と解答解説を見直せるようにした。

(3) 学生の自学自習を促す工夫

A

目標と目標達成に必要な行動がそれぞれ学生にとって明確であれば、学生が自主的に行動しやすいと考えられる。そこで、担当科目を履修した学生に対して、単位取得に必要な小テスト、定期試験等の目標点数を説明した。さらに、小テストの復習として中間テストを実施し、同じ問題を何度でも繰り返し解かなければならない状況を作ることで、反復学習を習慣づけさせるように工夫した。

(4) 学生とのコミュニケーション

A

昨年度に引き続き、講義前後や休み時間には、学生と積極的に会話するように心がけた。その際には、講義の話ばかりでは学生が距離を取りたがるため、生物学への関連性に関わらず雑談なども拒否せず応じ、雑学から科学に繋がる話をするなどして、学生が質問しやすくなるような態度や対応を心がけた。

(5) 双方向授業への工夫

A

獣医保健看護学科の生物学実習及び環境科学科の基礎生物学実習でも、課題を実験ノートとし、実験結果に対する考察をまとめさせ、自身の意見を整理するトレーニングを行った。さらに、獣医保健看護学科では、実験結果を研究発表形式でグループ発表する機会を設けており、プレゼンテーションに向けた学生同士のディスカッションや発表時の質疑応答を通じて、学生からの発信を行えるようにした。

(6) 国家試験対策の取組（獣医学科・臨床検査技術学科）

A

獣医学科・臨床検査学科の講義は担当していないが、獣医保健看護学科の生物学では毎週、講義内容に関連する小テスト(練習問題、総数210問)とその解答解説を用意し、中間テストや定期試験対策に小テストを全て覚えるぐらいに復習するように指導した。この小テストの大部分は、獣医師、愛玩動物看護師、その他の国家試験の過去問から出題しており、学生が早期から国家試験対策を意識するよう促した。

5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

(1) 授業評価アンケート結果の授業への反映

昨年度のアンケートでは、小テストがあることで勉強しやすかったという意見があった一方で、ノートを取る時間が足りないという意見もあった。そこで、小テストは昨年よりも問題数を増やしつつ、理解や復習がしやすいように解答解説も用意した。また、講義スライド中の空欄内に入る文字数を見直しつつ、学生がノートを取れているか、こまめに確認するなどして、アンケートに基づく改善を図った。

(2) (1)の結果による改善・向上の具体的な成果又は課題

今年度の学生も、講義を好意的に受け止めてくれていたようなので、引き続き、復習しやすいスライドと小テスト・解答解説を心がける。一方、学生たちと話していると、小テストさえやればよい、中間テストや定期試験の直前に答えだけ覚えればよい、と考えているように見受けられる学生が散見されたため、来年度は、小テストをベースにした応用問題を増やし、学生たちが知識を応用することを意識して勉強するように誘導していきたい。

(3) (2) を踏まえた次年度の取組

最近のコスト・時間的効率を求めがちな学生の傾向や、発展する種々のAI技術も考慮し、AIが学生の手抜きの道具ではなく学習・情報収集の効果的な補助となるように使い方を模索し、情報収集などでの使い方や、小テストやスライドを元にAIで作成した練習問題による自学などを学生に提案するなど、学生が勉強と手軽に向き合えるようにサポートしていきたい。

6. 学生の学修成果向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

(1) 現在までの学生の成績向上に資する取組及びその成果並びに今後予定している取組

獣医師等の種々の国家試験の過去問から講義に関連する問題をピックアップして、小テスト(または練習問題)を実施した。さらに、小テストの復習問題を中間テストとして、講義内容や教科書、小テストの反復復習が必要な状況を作った。環境科学科及び食品生命科学科の学生は、小テストを軽視しがちなため、繰り返し解く動機付けとして、期間中に複数回受験して最高得点を採用することを考えている。

(2) (1) の取組を通じて改善・向上が図られた学生の学修成果並びに当該取組に対して得られた学生及び第三者からの評価又はフィードバック

小テスト受験回数の記録が他学科よりも多かった獣医保健看護学科の学生は、定期試験で小テストの類似問題や新規問題を多く出題しても、最終成績は平均約80点だったが、小テストを疎かにする学生が多かった環境科学科、食品生命科学科では、平均点や新規問題・類似問題の正答率も低い傾向にあった。

7. 指導力向上のための取組 (FD研修参加等)

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年4月

2024/9/20: 教職課程FD研修会「教育職員免許法と本学の教職課程について」

2024/12/2: 2024年度 第3回 研究推進・支援本部主催 啓発セミナー

2024/12/20: 教職員研修会「情報の伝達に影響を与える表情・態度・言葉遣い」

2024/12: 一般社団法人デジタル教育推進機構発足記念シンポジウム講演(動画視聴)

8. 今後の目標

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年4月

学生がより積極的に基礎知識を身につけるように誘導するための環境整備を目標として、小テストの問題数増加、文章・単語の暗記以外も必要となるような問題のバリエーション(図の作成など)を追加、および愛玩動物看護師国家試験の過去問を参考にした問題の作成を予定している。

9. ティーチング・ポートフォリオを作成する際に活用した根拠資料

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年4月

AzaMoodle上で配布した講義資料 (PDFファイル)

AzaMoodleの機能で作成・実施した小テスト

FD研修会の参加記録 (Googleフォームで入力)